

日本海沿岸に残る津波の記録

東北地方日本海沿岸



① 寛保津波(1741年)

被害状況: 北海道で死者1953人

寛保元年7月16日(1741年8月26日)、大島(渡島大島)が突然噴火し、同19日(同29日)早朝に大津波が襲来した。



泉龍院寛保津波の碑

② 庄内沖地震(1833年)

規模: マグニチュード7
被害状況: 死者約100人

庄内沖で発生した大地震で各地の沿岸を襲った大津波は、高さ約9メートルに及び、旧堅苔沢村では死者8名(溺死7、怪我1)、家屋被害38棟、船被害56艘などの大きな被害があった。



天保の大津波墓碑

④ 新潟地震(1964年)

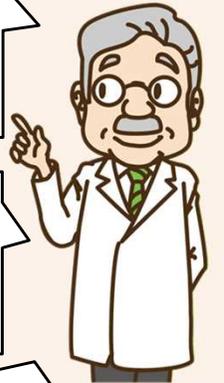
規模: マグニチュード7.5
被害状況: 死者26人

昭和39年(1964)の新潟地震では26名が亡くなり、津波と液状化で広く浸水し港では火災が発生した。



みちびきの像

太平洋沿岸だけでなく、日本海沿岸でも津波を伴う地震が何度も起きていることが分かるね。



地理院地図の自然災害伝承碑の伝承内容から被害の状況を確認してみよう。

寛保津波は、大島の火山噴火から3日後に発生したことが自然災害伝承碑の伝承内容に書かれているよ。

③ 日本海中部地震(1983年)

規模: マグニチュード7.7
被害状況: 死者104人

日本海中部地震が発生し、各地に多大の被害をもたらした。この地震の約20分後予期していなかった大津波が来襲し五里合地区において6名の尊い命が失われた。



次のスライドに解説があるよ

日本海中部地震津波慰霊之碑

⑤ 北海道南西沖地震(1993年)

規模: マグニチュード7.8
被害状況: 死者202人・行方不明者28人

突然奥尻島を襲った北海道南西沖地震により死者・行方不明者を合わせて198名もの人命を奪った大惨事を後世に伝える。



慰霊碑

地理院地図で見る自然災害伝承碑(津波)の分布

※ 各地震の規模、死者及び行方不明者数は理科年表2023(国立天文台 編)による。解説文は、自然災害伝承碑の碑文から抜粋した。

男鹿半島に残る津波の記録



③ 日本海中部地震(1983年)

昭和58年(1983)5月26日正午、日本海中部地震が発生し、各地に多大の被害をもたらした。この地震の約20分後予期していなかった大津波が来襲し五里合地区において6名の尊い命が失われた。石碑の側面には、この地区に押し寄せた大津波の高さ(海拔6.89m)が刻まれている。

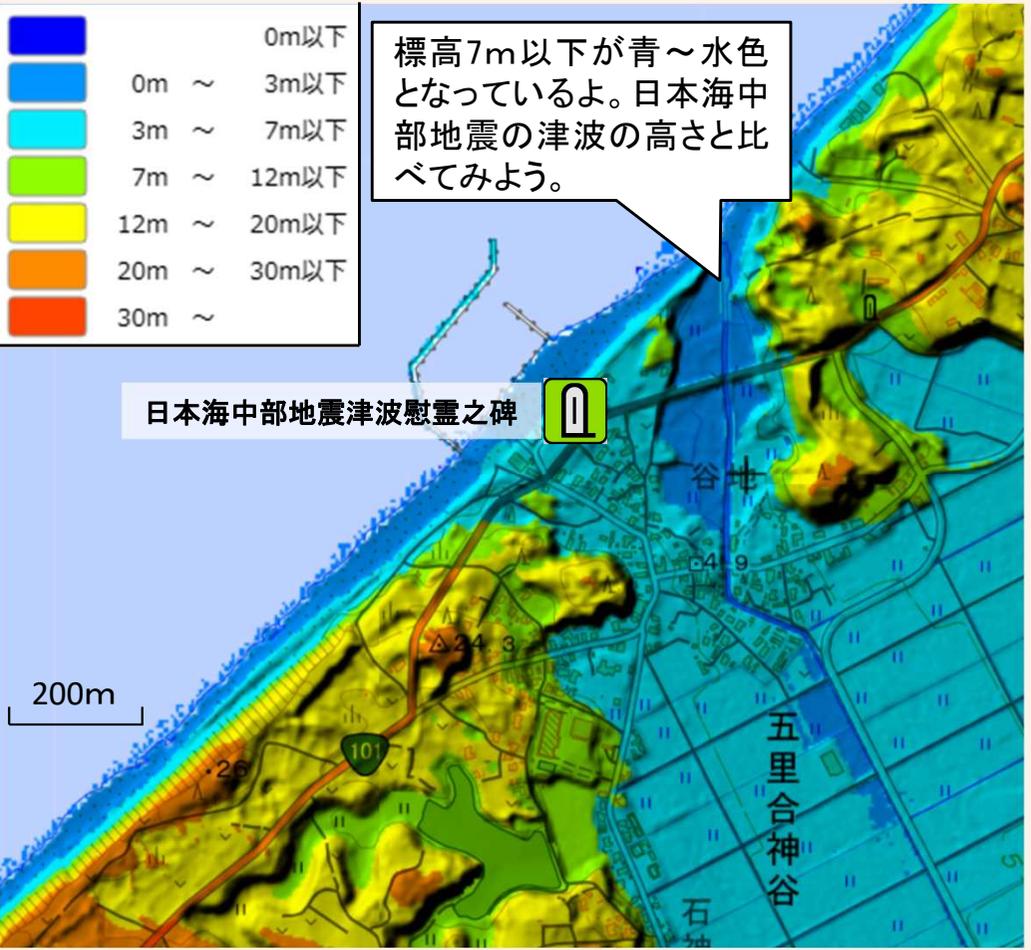
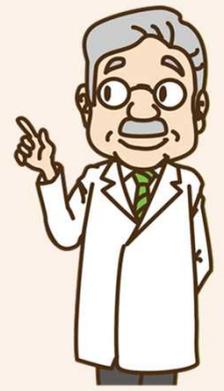


※ 自然災害伝承碑の伝承内容から抜粋 **日本海中部地震津波慰霊之碑**

地理院地図の自然災害伝承碑の伝承内容から被害の状況や津波の高さを確認してみよう。

デジタル標高地形図で地域の標高を確認してみよう。

日本海中部地震の震央位置を地図上で確認してみよう。



地理院地図で見る自然災害伝承碑(津波)の分布

※ 日本海中部地震震央位置は理科年表2023(国立天文台 編)による。